

## 第2回北九州市宿泊税検討会 議事録

- 1 開催日時 令和5年8月9日 9時30分から11時00分
- 2 開催場所 AIMビル6階 コンパス小倉  
C会議室（小倉北区浅野三丁目8番1号）
- 3 出席者（委員）※敬称略、50音順  
岡本 堅吾、加倉井 良多、マッコームズ 夏野、南 博、  
棟安 正人、吉田 和代
- 4 議題 (1) 第1回検討会議論の振り返り  
(2) 「北九州市宿泊税のあり方について(素案)」の議論

### 5 議事概要

- (1) 第1回検討会議論の振り返り  
事務局説明

- (2) 「北九州市宿泊税のあり方(素案)」についての議論

#### ア 素案全般について

- 考え方2の市内周遊、市内での消費拡大につなげる施策に充てるという点については、観光客が来たあとの施策の一つの位置付け、コンテンツ開発といったものも含まれるという理解で問題ないか。

**事務局**：そういう理解で問題ない。例えば、北九州市の食の魅力をPRすることによって、消費が増えるとかナイトタイムエコノミーの魅力が増すということがあれば、そういうことも含まれる。

- 前回は、大きな課題、長期的に取り組むような内容のものから、ピンポイントで何かに使うというような具体的な意見まで様々なものがあつたが、全体的な考え方として、北九州の観光のブランディングみたいなのを今後どういう方向に持っていきたいのかということが明示されていないように感じる。

**事務局**：ブランディングづくりは非常に重要だが、そこに特化した事業は今のところあげていない。重要性は十分理解しているので、考え方3の重点施策の中で今後検討していきたい。

- 大まかな方向性については 今までの議論で問題ないが、大まかな方向性を定めた後、具体的な内容についてまで議論するのかなど、今後の流れについて説明してほしい。

**事務局**：この場では、宿泊税の制度とこれまでの取組についてのご意見をいただき、今後のあり方について議論していただくというところでしたら終了となる。それに基づき年度ごとに観光振興に関する事業を組み立ていく。その際に、ここでの議論を参考にさせていただく。

手続き的には、このあと、パブリックコメントを行い、議会の意見も伺いながら、成案を公表していくという流れになる。これらの手続きを通じて、今回の大枠の方向性をお認めいただいたということになり、その内容を、来年度以降の予算編成をする時に参考にさせていただく。

- 今いただいた流れは理解できたが、もう少し時間をとって、委員の方々にご検討いただくことは可能か？

**事務局**：可能。ご意見をいただくために再度事務局からスケジュールなどをお示しする。

## イ 使途の考え方について

### (ア) インバウンド対策について

- 前回お話した通り、一昨日行ったインバウンドセミナーは264名の方に参加していただいて、非常によい勉強ができたと思う。アンケートでも、多くの皆さんがインバウンドに期待していることを痛感した。観光振興プランで掲げられているマイクロツーリズムというのももちろん大事だが、今が、インバウンドに舵を切るギリギリのタイミング。

今、北九州空港に1日あたり100人から150人来ているが、福岡空港には7千人以上の外国人が毎日降り立っている。それを北九州市に呼び込みたい。市長どうしが非常に近いということもあって、指導者がウィンウィンの関係をうまく築き、宿泊税をそこにうまく活用する方法はないか。北九州市に来た人が下関に行き、あるいは大分に行きと、各県に流れていく形をなんとか作っていきたい。今後、インバウンドのアクションプランを作成するということだが、少しでも早くアクションを起こしてほしい。

**事務局**：まず、インバウンドについてこれから伸びていこうということはおそらく間違いない。福岡空港に降り立った外国人に北九州市に来ていただく取組も必要だし、現在、東京、大阪間のゴールデンルートをいかに西の方まで持ってくるのかという視点であるとか、いろんな視点がある。また、ホテルのキャパシティや各社の経営の方向性なども踏まえて、その時々で何が一番適当かを考えながらしっかりと検討していきたい。

- 考え方3については、その重点施策が何であるかというところが重要。直近の課題で言うと、北九州空港に到着した外国人の方が、エアポートバスに乗り切れない事があった。そういった事象はSNS等の口コミで広まってしまうので、基本的なインフラ整備もかなり重要。インバウンドアクションプランで検討していくということにはなるものの、時間的に年度内でいいのかとなると、それもどうかと思う。
- 観光振興プランにもインバウンドについての記載があるし、アクションプランがまた別に切り出されるということで、宿泊税でもやるという風になった場合に、それぞれについての整理が必要。
- 宿泊税の使途ということについては多面的に考える必要がある。アクションプランの策定はとてもよいと思う。具体的な内容について説明してほしい。

**事務局**：まずは市役所内での意見を集約して、観光事業者にも加わっていただきながら、年度内に策定という流れになる。一方で、やるべきことは同時並行的にやっていくことになる。

- 宿泊税をインバウンドの促進するための費用として使えないかと強く考えるが、その点は難しいのか？

**事務局**：素案ではインバウンドも含めた重点施策としているが、インバウンドが最重要であると認識している。一方、それ以外の市内での消費者拡大につな

がることや着地整備的なものも必要であるので、そこも含めてメリハリをつけて取り組むと表現しているつもりである。

(イ) 宿泊施設への支援について

- ホテル関係者からの意見としては、宿泊施設の配管や空調などのインフラ整備への補助への検討の要望があった。宿泊事業者にとってもメリットがあり、北九州市のイメージアップにもつながる。
- また、東京都とJTB商事が取り組んでいる、宿泊施設向けアメニティグッズの水平リサイクルの取組を行ってはどうかという提案があった。  
北九州市は環境未来都市であるので、SDGs的にも廃棄物にも気を使うということなことで、北九州市オリジナル備品みたいなものを作ってはどうか、例えば、歯ブラシの袋に北九州市のマークやエコのマークを入れるなど。  
それを気にしている観光客は多く、海外の方はもっと気を使っているというデータもある。その共同購入に宿泊税を使ってはどうかという意見もある。滞在者が環境保全への協力が自然とできる仕組みを作り、北九州市のイメージアップや集客力強化につなげるという意見が出た。

(ウ) 市民の力を活かした観光振興について

- 前回提案した、市民の方にも観光振興に参加していただく取組で、インターネットでは簡単に得られない、知られざる歴史や情報を地元の観光ガイドの方に案内してもらおうと、また来たいとなるのではないかと。また、観光関連事業者へのおもてなしのセミナーやインバウンドの方向けの外国語での対応などを含む教育などに、宿泊税を充てると、来ていただくお客様と市民参加による観光振興の両方に貢献できるような使い方になる。そういった方や店舗の認定制度を設けて、バッジやステッカーなどで分かるようにすると、観光客の方にとっての安心にもつながる。